

- ： 目標に応じて
- ： 方法、形態を選択する

4 テストで見取る

生徒の学力を見取る手段としてのテスト

テストは様々な評価方法の中で最も多く学校で用いられてきたものです。授業中に行う小テスト、実技テスト、そして定期テストなど、いろいろな形態でテストが行われています。

また、観点別評価においても、観点別の評価規準が達成できたかどうかを見取るために、様々な形態のテストが取り入れられています。

☆テストづくりは授業づくりに通じる

テストは、生徒が学習活動で身に付けた成果を見取るものであり、言い換えれば生徒はどのようにもの見方や考え方を身に付けようとしていたのかをたどるものです。

つまり、テストづくりは授業づくりと密接な関係にあり、今日求められる学力観を踏まえた実践に基づいて行うことが大切なのです。

目的に応じた方法でテストする

生徒の学力を適正に見取る手段としてのテストでは、「授業で何を学習するのか」と「テストで何を測るのか」との密接な結び付きを明確にすることが必要です。そして、その時間の目標が達成できたかどうか、生徒の身に付いた力をどのように見取るか、適切なテストの方法を考えます。

テスト結果を指導にいかす

テストは、評定を出すためだけに行うものではありません。

テストを実施することで、生徒が自分自身の学習状況を把握し、自身の学習の改善につなげることができます。

教師にとっても、生徒の解答状況を、自身の授業改善の資料として活用することができます。また、テストによって明確になった成果や課題、及び誤答分析の結果などから、教科担当でより良い授業の在り方などについて協議や意見交換を行うことも有効です。それらは新しい単元（題材）においても、継続的に補充学習を行うなどの学習活動そのものの工夫につなげることができます。

個別支援
が必要な
生徒への
対応を考
えよう

教えたことを出題しよう

テストでできないことは、生徒の意欲に関わりません。授業で扱わなかった応用問題を出題するのも大切ですが、様々な生徒の実態に合わせて、それぞれができたことを感じられるようなテスト作りを心掛けましょう。



テストの集計

テスト問題を観点別に集計すると、その生徒の学力の特徴を理解しやすくなります。そのために、観点ごとの小計を記録しておくようにしましょう。

テスト作成の手順例

実際にテストをどのように作成していけばよいのでしょうか。具体的な手順例を示します。(勤務校のルールを確認してみましょう。)

○学習目標を確認し、問題作成仕様をまとめる

学習活動を通して生徒に身に付けさせたい力を柱に、大問の構成など問題作成仕様をまとめます。このとき、観点が年間指導計画と一致しているか確認します。

○設問のバリエーションと生徒の「解答の流れ」の関連を考える

観点別評価に即して生徒の学習成果を測る設問の形態を考えるとともに、予想される解答や記述を想定します。思考力・判断力・表現力等を見取る設問にするために、生徒が知識や技能を活用でき、理解を引き出す工夫があるとよいでしょう。

○解答用紙の作成と、配点・解答所要時間を確認する

設問に見合った解答スペースを確保し、小計欄を付すなど、テスト分析と活用に資する集計方法を工夫します。

○採点基準を作成し、出題のねらいや解説をまとめる

採点基準を明確化し、出題のねらいを踏まえながら、生徒がどのように考えれば解答にたどり着くことができるかを確認します。

○問題用紙や解答用紙に誤りがないかどうか点検する

必ず複数体制で点検しましょう。

☆テスト問題の共通化

各学校で同一科目におけるテスト問題の共通化を図ることは、組織的な授業改善を進めるための有効な方法となります。学校全体として授業の研究・実践及び評価を行うことで指導の一貫性が保たれ、生徒の学力を適正に測ることができます。

実技テストで気を付けたいこと

テストの前に、テストの具体的な内容について知らせ、準備(練習)をさせることが大切です。実技の内容や時間、必要な持ち物、準備(練習)のためのポイント、評価対象となる観点、具体的な目標(評価(B)の内容)を伝えましょう。テスト実施中には、生徒も教師も集中できる環境づくりが必要です。安全面の確認や時間進行の管理といった配慮をします。例えば、家庭科のアイロンがけテストでは、電源プレーカーの確認や、時間配分、やけど等への注意が必要になります。テスト中、待っている生徒への指示もきちんとしておきましょう。

テストで「終わり」ではなく、次への「ステップアップ」とすることが大切です。評価結果を通知し、生徒にフィードバックをします。再チャレンジの機会をつくってもよいでしょう。

商業における実技テストについて

商業科では、主に、検定試験と絡めて実施しており、パソコンソフトの操作方法について見る 경우가多くあります。検定試験を意識した場合は、できるだけ、検定試験と同じ環境でテストを実施するようにしましょう。また、機器を使用する場合は、全員が同じ条件でテストを受けられるように準備します。

実技テストの実施後には、間違えた箇所を確認し、正しい答えを導き出し、解答を完成させます。